



放置竹林のリスクを 町の魅力に変える

パートナーシップミーティングin 逗子

2025年2月1日(土)

逗子竹活代表 内山学

自己紹介

- **小学校時代（東京都府中市）**

造形クラブで工作が得意

化石、恐竜大好き、シェルコレクターで逗子葉山にも出没

- **中学校時代**

PC部&茶道部、熱帯魚を飼い始めさかなクンになる

- **高校時代**

生物部部長&天文部を掛け持ち、山登りに熱中し日夜奥多摩の山野に入り浸る

- **大学時代（静岡在住）**

水産学を専攻、環境問題に傾倒し石油製品断ちを实践、脱プラの観点から竹細工を試みるも挫折

- **会社員時代（東京→逗子に移住）**

理化学研究所で遺伝子導入の研究、出版社で自衛隊のマニュアル作り、ガソリンスタンド専門誌の記者を経て独立

- **自営業（地域密着）**

防災士取得、逗子市商工会青年部に加入、逗子地域資源利活用を立ち上げてドローンと竹資源を事業の柱に据える

逗子地域資源利活用

ドローン事業 × 竹資源事業



代表 内山 学

Uchiyama Manabu

〒249-0004

神奈川県逗子市沼間1-16-20

Mail: sorausumeji@gmail.com

Tel: 080-5029-1191

2022年冬～ 竹の地産地消 プロジェクト始動

・ 竹林問題に地産地消の形で挑む

逗子の竹林の現状を訴え、持続可能な対策として、竹を地域資源として活用する竹の地産地消プロジェクトを開始。

NHK、ラジオ、新聞、ポッドキャストなどのメディア出演、SNSでも随時情報を発信を継続中。

1年目の目標 活動拠点と仲間づくり

2年目の目標 知名度地域No.1!

.....

5年目の目標 竹関係人口2,000人!



竹林再生街の魅力アップ
市民クラブ「逗子竹部」部長
内山 学さん(43)

「多才多彩」
この人に聞く

「街の魅力を高める“逗子竹活”」
NHKG
神奈川 逗子

「竹林整備 活動中」

「これまでのスターは」
逗子市

「販売風景」



地域のお知らせ

◆スズキヤ移動スーパー

スズキヤさんは1月15日から逗子市内で移動スーパーを始めました。当地域での現時点での販売場所、曜日を表に示します。なお、販売場所はさらに募集中ですが、幅3m長さ5m程のスペースが必要です。また公道上や学校、公園等は使用できません。

場所	時間	月曜日及び水曜日
自治会駐車場(沼間5-17)	10:30～	
グリーンビル(沼間5-21付近)	10:50～	
沼間5-16付近	11:15～	



STEREO LOCAL PODCAST
20240214
RECO RADIO
GUEST 内山 学さん(「逗子竹部」代表)
地産地消! 奥深き”竹”の世界。

竹害なんて言うけれど 放置してきたのは人間

- 放置された空き家、空き地（耕作放棄地、山林）に竹林が侵入拡大。
- 竹の成長は早く、わずか5年で放置竹林になる。
- 竹は1,300種、うち日本には600種。日本三大有用竹（モウソウチク、マダケ、ハチク）はすべて中国大陸原産。
- そもそも日本列島に作物として竹を持ち込んだのは人間だという歴史的背景。

→世界に目を転じると竹はトレンドの成長産業

世界の竹市場規模は2024年に650億米ドルを超え、
2036年末までに1,043億米ドルを超えると予測。

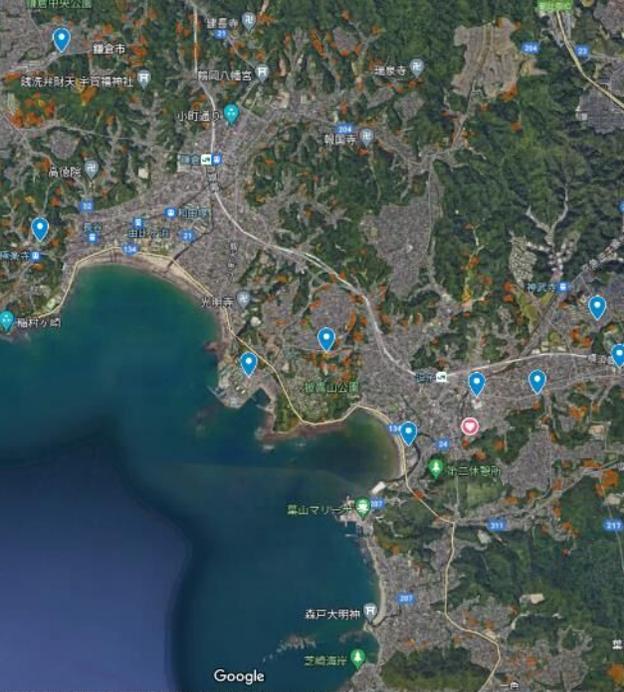
かつて日本は竹活用の先進国だったはず…!





住宅地裏手の崖 & 放置竹林が 逗子の災害リスクに

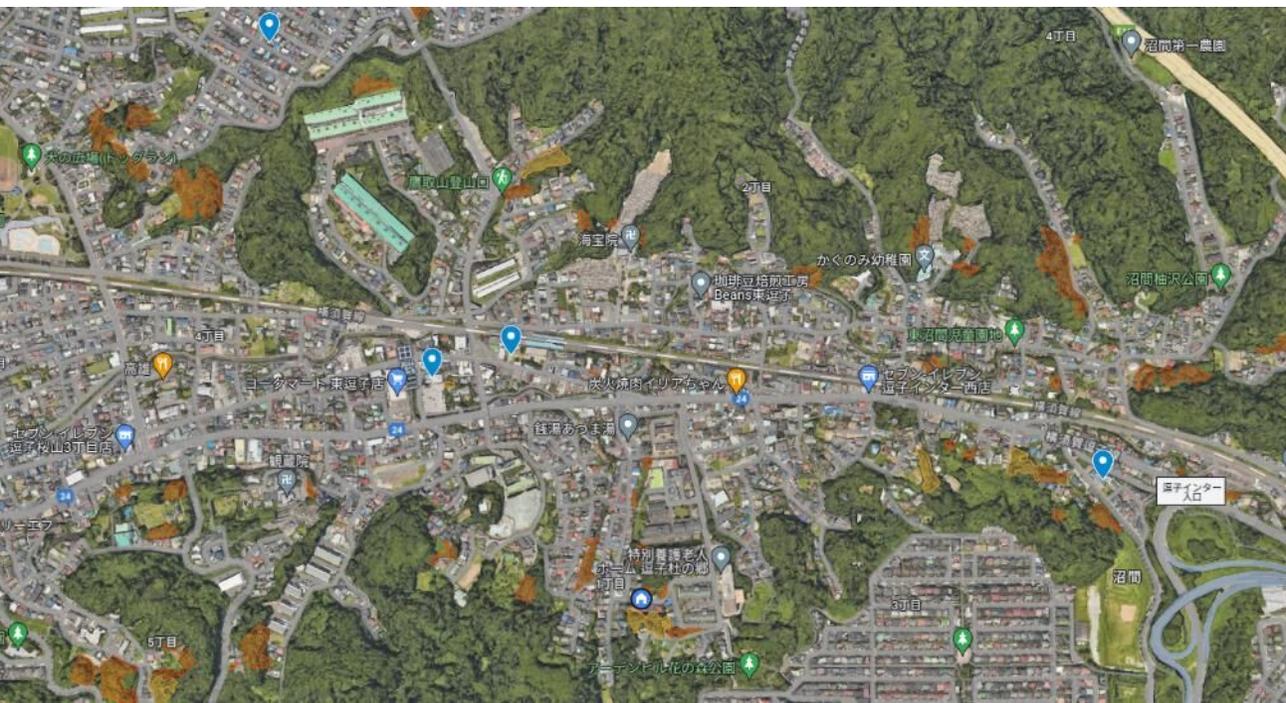
- 竹の地下茎は樹木の根よりも浅く、竹が弱って来ると地滑りの原因になる。
- 光と風を求めて周囲に拡大。家に倒れこんだり樹木の崩落を招く。

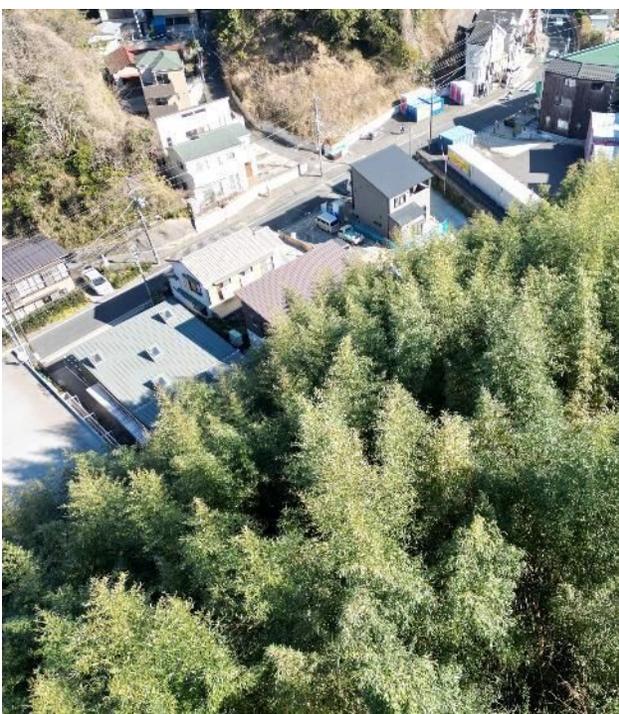
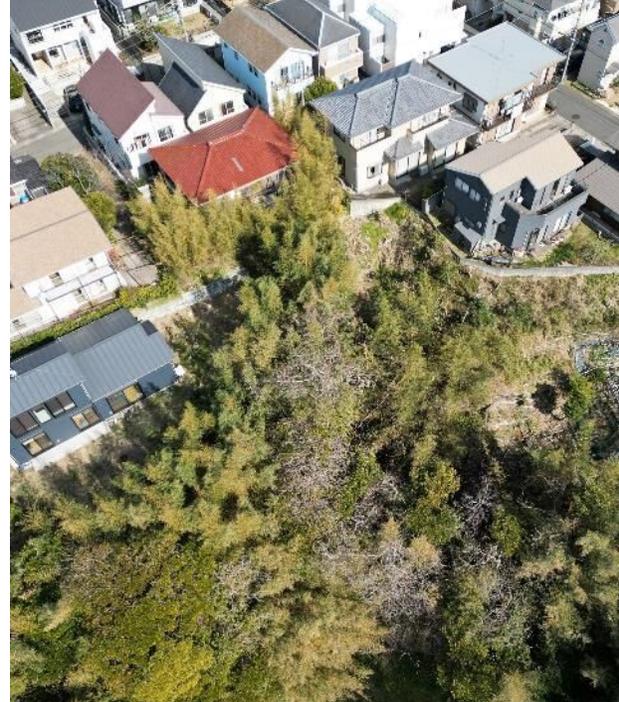


周辺地域の竹林分布を調査・把握

- 逗子周辺（鎌倉、葉山、横須賀）の竹林の分布を調査・比較した。
- 1971年当時に調査された逗子市の植生図では、竹林の数は10カ所に満たない。
- 現在は市内に**190カ所**以上存在し、その数およそ20倍に拡大。
- 石油製品の普及、中国産タケノコの輸入開始で徐々に竹の需要は衰退していた。
- 高度経済成長期に谷戸の農地を住宅地に作り替えた際、崖地に竹を植えたことがその理由。

結論：成長の早い竹に天然の土留めとしての効果を期待した。





ドローン活用で空から調査

- 放置竹林は急傾斜、倒竹・倒木・落石の危険、枯竹や藪により容易に人が立ち入れない。
- ドローン活用で竹林の規模、健康状況、密度、種類などを広範囲かつ安全に調査可能に。
- 安全かつ適法にドローンを運用する知識と技術を身に付けてアップデートすることが重要。



最後は地道な フィールドワーク

- 急傾斜の竹藪に分け入って調査を行う。無理は禁物。
- 危険を伴うため安全第一に必要な知識・スキルを総動員する。
- 周辺住民へのヒアリングや、地権者を探し許可を取ることを忘れずに。

⇒ 逗子市の緑政課、防災課、自治組織、住民協や地域のことに詳しい議員、県議との連携が重要。





日本の竹林には パンダは居ないけれど

- 日本にある竹は産業管理外来種に指定されている作物。(産業上重要だが適切な管理が必要な外来種)
- 竹は文化・文明・生活を支える基盤として古くから利用してきた有用植物。
- 竹林が価値を失って放置されてしまったのは竹を様々なことに活用してきた技が失われてしまったことにある。
- 逗子竹活メンバーは竹細工に間伐材を有効利用し、健康な竹林を育てている。



行政 & 自治組織 と連携して整備 を実施

- 市有地はアダプト（里親）制度を活用。
- 池子の森自然公園（日米共同使用）の竹林を整備。
- 市内東部の沼間エリアは住民協の事業として竹林整備を実施。
- 私有地は竹林整備や資源活用を請け負い、管理負担を減らす。
- 竹林に人を呼び込み、関係人口を増やす。



竹細工を通して仲間を集める

- 毎週木曜&毎月第3土曜が活動日。
 - 竹を健康に育てる技術を広める。
 - 竹細工のスキルを高めつつ、ワークショップや講座を開催して技を地域に広めていく。
 - 放置竹林を勿体ないと思う人を一人でも多く増やし、思いを共有する。
 - 市内で竹製品を目にしたたり、竹を担いで歩いている人が当たり前に見られる街にする。
- ⇒竹細工のメンバーは50名を超えた。

竹の地産地消で竹林再生に貢献 **おすすめ**
はじめての竹細工



の技術を学び、生活に竹を生かすことで、
地消のサイクルを蘇らせます。

一口体験



4~6月 新春開催
はじめての竹細工
スタート講座
定員8名募集

古くて新しい竹素材の魅力!
放置竹林を地域の宝に変えよう

開催日
11月20日
12月18日
1月15日
～15時(お昼休憩1時間)
18時～10時に実施
※料金は要相談です

場所 沼間小学校区コミュニティセンター、他
(神奈川県沼間3丁目16-32)
受講費 39,000円(場所代込み、6回分先払い)
包丁代 10,000円
会費が 1,000円前後/回(希望者のみ)



講師: 運子竹部おたけ鎌倉竹部
運子竹部は2022年12月に発足。運子市の防災力と街の魅力アップの観点から、行政や自治組織と連携しながら市内の放置竹林整備に取り組み、竹仲間を増やしつつ、「竹の地産地消」を推進中。

申し込み・お問い合わせ 運子竹部 主催 内山学 sorakusameji@gmail.com



竹資源を活かして 地域の特産品を つくる

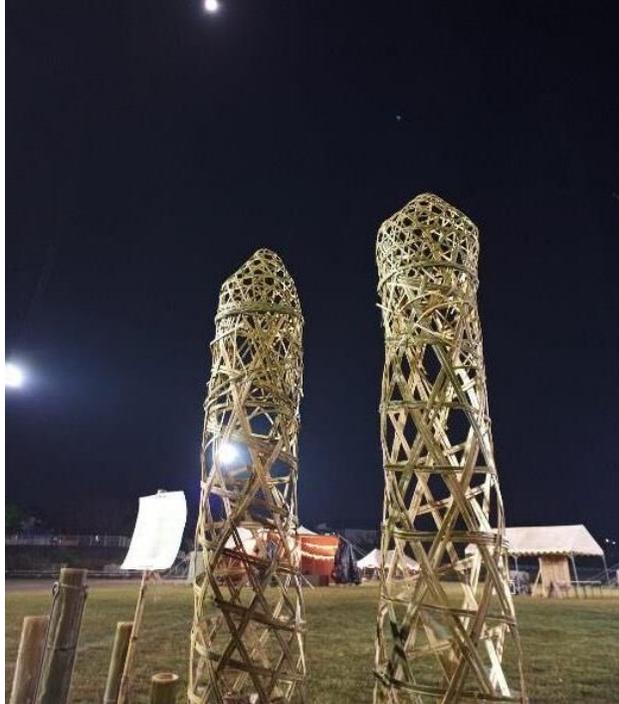
- 間伐材で様々な竹製品を作り、地元の朝市やマルシェに出店。
 - 竹林の現状と逗子竹活の活動を知ってもらい、仲間やファンを増やす。
 - 地域資源を掘り起こして地域に新たな特産品と仕事を作る。
 - 竹細工に使えない部分も竹炭に加工して活用。
- ⇒ 逗子竹活グッズ(竹細工)は逗子の暮らしセレクション金賞上位(逗子市市商工会女性部長賞)を受賞。



メンマ作りで逗子ならではの名物を生む

- 放置される幼竹と、廃棄されるシラスのゆで汁をアップサイクルした新商品を考案。
- 逗子市商工会のサポートを受けながらテストマーケティングを実施。
- 朝市での販売、市内2飲食店での提供、コラボ（メンマおにぎりやガンモ）を実施中。
- メンマの製造は障害福祉課と連携。竹福連携（就労支援B型作業所）による雇用創出を目指す。
- お土産や名物、ふるさと納税の返礼品に育てる。





竹アートでコミュニケーション

- 文化スポーツ課と連携した逗子アートフェスティバル2023、2024に参加。
- 池子の森自然公園の放置竹林整備を行い、間伐材を使って作品作りを行った。
- 竹細工の公開制作を通じて多くの人に、逗子の宝である池子の森の貴重な自然を知ってもらい、関りを持つことができた。



子どもたちが竹に親しむ体験を

- 池子の森の音楽祭をはじめ地域のイベントに竹細工WS（年間十数回）で出店。
- 環境教育の授業として沼間小学校、沼間中学校、逗子葉山高校で竹林整備と竹活用の授業を実施。
- 社会教育課と連携して逗子市役所で竹トーク&竹細工を実演。
- オルタネイティブスクールからの依頼で流し素麺WSを実施。



魅力ある街づくりに 向けた竹活用



- 便利な石油製品は自然に還りにくく、山や街そして川から海に流れ着き、マイクロプラスチック問題の原因に。
- ゴミを拾うとともに自然に還る素材を利用していくことも大切なアクションに。
- 竹林を手入れすることで不法投棄を減らし、逗子を美しく魅力ある街に。
- 整備された竹林はロケーションとして優れた価値を持つ。都心から近い逗子の地の利を生かしてイベントやロケ利用などを進め、竹林の価値を高める。



放置竹林問題のその先は 地域資源として竹林の持続的 な育成&活用の時代に

- バンブークレジットの可能性

竹は幹や枝などの形で炭素を蓄えています。1ヘクタール(100m×100m)の竹林は1年間で約17トンの炭素を吸収。

- 唯一の持続可能な天然資源

一般的な樹木の場合、苗木を植えてから木材として使用できるまでに40~50年掛かる。竹は伐採後も枯れず、3年で収穫できる優れた地域資源です。

⇒体験型で世界から地域に人を呼べる

6次産業化した新時代の竹林業を興す。

企業×NPO×学校×行政との連携が必須

都心からのアクセスも良好な
逗子市最大の竹林

1.67ヘクタール=28.39トン
(50~60世帯の排出量に相当)

